

第9章 教材を改善する

教材の改善 P130

◇教材の改善をほどこす方法

- | | |
|----------------|-------------------|
| ・教材に何かを加える | － 不足しているものがあるとき |
| ・どこかの何かを削る | － 多すぎるものがあるとき |
| ・どこかの何かを他へ移動する | － 順番がまずいとき |
| ・どこかの何かを変更する | － もっとよい内容を思いついたとき |

◇改善する候補

- | | |
|------------|------------------|
| ・前提テスト | ・事前・事後テスト |
| ・教材の導入部分 | ・教材の説明部分 |
| ・教材の練習部分 | ・教材の出来具合確認部分 |
| ・教材のまとめの部分 | ・アンケート（インタビュー項目） |

何を改善するかは、形成的評価の結果解釈を参考に決定する

形成的評価の結果解釈 P131

形成的評価の結果解釈は次の順番で行う

1. 事後テストの点数 → 教材の効果を調べる
2. アンケートまたはインタビュー → 事後テストの点数の原因を調べる
3. 経過時間記録用紙 → 学ぶ過程を振り返る
4. 観察プランにもとづく観察記録
→ 自分が思ったとおりに教材が使われていたかを調べる
5. 感想や意見の整理 → 観察からは分かりにくい利用者の内面を調べる

教材改善の手順 P132、改善のコスト効果 P134

教材の改善は次のような手順で行う

1. テストの改善 → テストの結果は信用できるのか
2. 学習課題の配列 → 教材の組み立て方は正しいのか
3. 用いられた指導法略 → 独学のための学習環境が用意されていたか
4. テスト、課題、方略間の整合性 → 教え方が統一されているか
5. 学習者とのコミュニケーション → 意図が利用者に伝わったか
6. 修正コストが見合うものか → 苦勞して修正する価値があるのか

すぐできて効果の大きいものから改善を行う